

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会学系】

レポートとテスト半々が基本だが、出欠も加味した。

授業期間内に3回の小テストを行い、それに基づいて評価した。

授業の目的に応じて受講状況を把握し、筆記試験またはレポートにより、内容の理解度、目的の達成度に応じて評価を行った。

発表：20点、中間試験：30%、期末試験：50点、授業への積極的な参加：10点

レポートによる評価。
レポートを読んだ上での主観的印象による評価。

授業内の発表(30%)、レポート(60%)、卒業研究中間発表会あるいは卒業研究発表会への参加(10%)
出欠や遅刻状況を加味して客観的に評価した。

教科書やプリント教材で扱った知識を覚えたかどうか。

ロシア語については文字と基礎的な文法をきちんと覚えたかどうか。初習外国語に関しては、聞く人の知識に配慮しながら発表ができたか。最後のレポートでは、教科書の論点に即して日本語の特徴をまとめることができたか。

発表時における論文内容の理解および批判的考察の度合い、さらに討議への参加状況を基準として評価を行った。

試験による場合は、平均点が60点程度になるように気をつけた上で、なるべく学生が納得できるよう、点数のままにつけるようにしている。模範解答も解説つきで提示している。
透明性と試験結果のふりかえりによる学習が大事であると考えている。

成績は、下記3点の総合評価です。
1.発表：音読、訳、コメント(分析)、質問への受け答え 20%
2.レポート 60%
3.授業への積極的な参加 20%

授業への積極的な取り組み、授業外でのレポート作成、毎回の発表。

出席・担当・授業参加態度40%、小テスト10%、期末筆記試験50%の総合評価。

与えられた課題に対する準備状況(課題提出物を提出したか、自分の考えをまとめてきたか)
授業中の討論を通じた考えの深化

事前の打ち合わせの状況、発表の内容を踏まえ、総合的に評価している。

成績評価の方法は、第1回の授業において最初に示した。以下の3つのポイントの達成度から総合的に判断した。

(1) 研究発表の内容(課題クリアの是非、問題提起の鮮やかさ、論理的な明快さ) 40%

(2) コメント(研究発表者に対する反応)の内容(テーマに対する当事者意識) 20%

(3) 学期末レポートの内容(考察・分析の深さ、論理的な明快さ) 40%

(1)については、単に対象分析だけに留まらず、より普遍的な問題へアプローチする潜在性を有しているかどうかを評価対象とした。また、聴衆の理解の進捗や問題意識の共有を意識したプレゼンテーションが行えたかどうかについても評価対象とした。

(3)については、(1)の研究発表をただ文字化するだけでなく、いかにレポートや論文としての整合性やまとまりを追求することができているか、(1)から更なる発展的な考察が行われているか、なども評価対象とした。

結果として、SからCまで適度に分散した。

(1)は、講義形式が主であったので、意見文とレポート内容を基準に成績を出した。

(2)(3)は、学生の発表・レジュメの準備過程・レポート・意見(リフレクション)シートを総合的にみて成績を出した。

7割は筆記試験の点数で出しました。残りの3割は、学生の授業への参加度を加味しました。この参加度はリアクションペーパーへの取り組み具合、授業をちゃんと聞いているかを問いました。この記述が十分でない際は、減点しました。

1) 行政法学におけるこれまでの議論の内在的な理解がなされているか

1') 上記1)の内容に対する批判的な検討がなされているか(なくてもよい)

2) 実際の社会事象における1)を用いた問題発見がなされているか

3) 問題に対する1)を適用した分析がなされているか

授業への参加度やコメントシートの内容、及び期末レポートを総合して評価した。

出席および中間テストで60点満点。期末レポートにて40点。

レポートの評価に際しては、参考にした文献の概要説明につきポイントを的確に整理できているかに着目し、それに沿って自分の考えを示せているかを重視した。

出席・授業態度・討議への参加・コメントカード内容10%、発表資料および発表時の態度40%、くずし字読解能力10%、期末レポート40%。グループ発表については、きちんと問題意識を持って担当箇所本文比較、注釈、現代語訳を行っている学生には30点以上の点数を与えた。期末レポートについては、古典文学に関わるテーマを設定し、先行研究5つをふまえて自分の考えをまとめるという内容とした。先行研究としてWikipediaやキュレーションサイトを利用した学生については低評価とした。

講義内容をちゃんと聞いているか、正確に理解しているか、を基準としている。

概説Ⅱは定期テストと出席状況、演習は定期テストと出席状況に加えレポート。

授業への参加頻度(出席日数)が30%、中間・期末筆記試験が70%として、5段階評価(S・A・B・C・D)を行い、点数化した。

日々の課題、小テスト、最終レポート等を総合して結果を出しました。
授業参加、小テスト、最終レポート等を総合して結果を出しました。

講義の内容をどれくらい理解して、それを自分の言葉で説明できているか。試験の場合でもレポートの場合でも同じである。その基礎がしっかりしていれば、その上で自分なりの意見や調べたことにも評価点を与える。

二回のレポート(各20点)、参加点(10点)、期末試験(50点)により成績を出す。レポートについては、内容(10点)、論理性(5点)、形式(5点)とした。

模擬授業の準備、実践、その後の振り返り等の総合的な評価。特に毎回行う実践者へのフィードバック、また、自身の内省等がきちんとできたかどうかを基準とした。授業中の積極的な姿勢も評価した。